



【2018-08-15】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

『女性が管理職を目指
さない社会』

長野修二

女性が管理職を目指さない社会

先般、プレジデントOnlineで『[昇進はまっぴら"女性社員低モチベの元凶](#)』なる記事を読みました。

女性の管理職が増えてきていますが、それでもデータからみると役職があがるほど男性に比べて少なくなります。

いろいろな事情があるのでしょう。

そもそも女性が管理職を目指さない理由の多くは、私見ですが、男性社会の硬直した人間関係があるからかも知れません。

私は男性ですが、私のようなわがままな男性（私自身は主体性といってもらいたいところですが、私を知る多くの人達は、ただのわがままといいます）でも男社会のしきたりには辟易しますし、必ず距離をおきます。

私は会議などであえて自分の考えを主張しますが、経営者からは叱責されることも少なくありません。

まわりの社員は、ただ押し黙っていますが、その理由もわかりません。

いらんことを言えば、叱責だけでなく自分の身も危ないからです。多くの方は、そのような態度の人間が左遷されるのを見せつけられるからです。

さらに、あの手この手で企業から排除されるようなケースもあるようです。

私の言動でも、多くの人たちは、言動後の様子を眺めています。多くの経営者（オーナー経営者が多いのですが）は、厳しい（いやらしい）姿勢で臨んできます。

いわゆる左遷や解雇でしょうか。

もっとも、私自身は、どういうわけか左遷は少なく、その後も経営者へづけづけとモノを言ってきました。

経営者からあまり好のまれないタイプですが、そのときに必要があれば、あるいは使い道があれば我慢して使っているようでした。

と、まあ、このような企業組織の中で男社会の仕組みを毎日みている女性が管理職をやる動機がみえてきません。

むしろこのような男性社会から一定の距離をおいて自分のポジションを確立しながら自分のライフスタイルを充実させたほうがよ

いにきまっています。

男性である私でも、ある程度の付き合いはしながらも、自分と家族を中心に考えて生きてきました。

もっとも、仕事を通して一般社員の人たちと交流することには、なんら問題はありません。

理由は、お互いに自由に物が言えるからです。

その中から仕事のヒントなども多くもらったような気がします。

問題なのは、あくまで管理職や経営職の人たちの関係です。

そのわけは、権力（権限）があり、お互いの利害が強く関係してくるからです。

女性は、そこに日常的な仕事の中でも人間のいやらしさを幾度となくみるからではないでしょうか。

男性と同じように権力志向が強い人は、そのような中にいると男性と同じようなふるまいになってきます。

実際、私が経験した中にもそのような女性はいました。

なかなかのものでしたし、私などよりもはるかに男性社会の中でうまく生きていました。

それでも結局、その会社は倒産し地位もなくなりました。

その後はわかりません。

現在、メディアでいろいろな組織の問題が報道されていますが、結論からすれば、男社会の人間関係が生んだ問題だともいえそうです。

私は、報道をみているだけで気持ち悪くなりますが、報道される組織だけでなく、あらゆる組織においてこのような傾向があると、確信しています。

女性の観察力をあなどってははいけません。

企業であれ、家庭であれ、鋭く人間やまわりの環境を把握し、生きているのが女性ではないでしょうか。

私などは、企業でも家庭でも常に謙虚に女性から意見を聞き仕事をし、家庭でも素直に妻の話に耳を傾け（特に今は）自分のあり方を学んできました。

勿論、私の『二師三兄五友』は男性ですが、こちらは仕事の根本

的な、あるいは本質的なことを学ばせてもらいましたが、身近にいる女性からは日常的に必要な問題点や改善策、あるいは私に足

りない部分など日々生きていくための指南をしてもらいました。そのおかげで会社では、よい成果が出せてきましたし、家庭においてもなんとか夫や父親としてやれているのだと、信じています。

そんな幸せな人生は、自分の心の中にしっかりと存在感があり、日々出会った多くの人たちに感謝し、楽しい人生を送ることができています。

女性が管理職を目指すような社会になるには、男が家庭において変わることが先決でしょうか。

企業だけの人生だけでは、所詮、人間性は磨かれないように感じます。

自分の人生の選択に悔いはありません。

やはり大切なのは、家庭であり、自分自身だからでしょうか？

女性や男性が家庭を大事にして仕事ができるようになってはじめて本当の意味でよい管理職（男女共に）が生まれてくるのではないのでしょうか。

また、そのような女性管理職を支えていく男性社員は、本物の男なのでしょう。

私は自身の反省を込めて、少しでもそのような男になりたいと思って日々生きているのかわわかりません。

人生の試験は、死ぬまで続く終わりのない旅でしょうか。

楽しみたいものです。